

わづら 大病を患う

昭和56年(1981)、丸山誠治監督作品『南十字星』のオーストリアのシドニーロケから帰国すると、持病の糖尿病(※72)とストレスからか白内障(※73)を併発したため、東京医大で手術し、翌年緑内障(※74)で眼底出血(※75)を発症し、さらに足の指が壊疽(※76)にかかり、手術しました。

※72 糖尿病

血糖値を下げるインスリンがうまく働かなくなり、慢性的に血糖値が高くなる病気。

※73 白内障

目の中のレンズの役割をしている水晶体が白く濁ってくる病気。

※74 緑内障

目から入ってきた情報を脳に伝達する視神経という器官に障害が起こり、視野が狭くなる病気。

※75 眼底出血

網膜表面の血管の破綻や閉塞することで起きる網膜の出血。

※76 壊疽

糖尿病の合併症で、体の組織が腐ってしまうこと。

医者から失明寸前とまで言われました。手術後、目に包帯
を巻いて病院のベッドに寝ているほかなく、本当にもう目が見えなくなるのではないかと不安な毎日を送りました。
ただ、もう一度楽譜を見たいと本当に思いました。ベッドに横たわっている勝にラジオから聞こえてくる音楽は細川たかしの『北酒場』ばかりだったといいます。この年の一番のヒット曲でした。